

医療・福祉
NOW

宮沢仁朗

認知症の原因の5割以上を占めるアルツハイマー病。進行を送らせることは可能ですが、残念ながらいまだ根治療法はなく、進行性の治療が難しい病気と位置付けられています。しかし近い将来、アルツハイマー病を予防できる時代が到来するかもしれません。

現在アルツハイマー病の主な原因として考えられているのは、アミロイドβタンパクが脳内に蓄積して神経細胞が減少する、アミロイド仮説です。実はこのアミロイドβタンパクはアルツハイマー病が発症する20年ほど前から脳内に蓄積してることがわかっています。発症前にアミロイドβタンパクの蓄積を正確に捉えることができれば、何らかの予防策を講じることが可能となります。

今、アミロイドβタンパクの異常蓄積を

▶アルツハイマー病が消滅する日は近い？ 期待を込めて…



検出する検査法として、アミロイドPET検査と脳脊髄液検査があります。しかしアミロイドPET検査は高価であるとともに、検査に用いる放射性物質の作用時間(半減期)が短いため、製造工場からスキャン検査場まで短時間で輸送しなければなりません。脳脊髄液検査は腰椎の間に針を刺し液体を採取する方法ですが、侵襲性が高く注意を要する検査なのです。そのため両検査は検診レベルには普及せず、より安全で低コストの検査方法が世界的に望まれています。

そうした現状について光明を見いだす報告が、複数の日本の研究所から発信されました。血液バイオマーカーです。ごく少量の血液を採取して、血液に含まれるアミロイドβ関連物質を定量測定することで、アルツハイマー病の発症を高い精度で予見できる画期的な検査法です。実用化に向けてのさらなる研究・検証が待たれるところです。

しかし発症前に予見できたとしても、確実な予防法がなければ検査を生かすことはできません。そこで救世主となり得るのは「ワクチン」と考えられます。今アルツハイマー病による軽度認知障害や軽度認知症の新たな薬物療法として、免疫反応によってアミロイドβタンパクを除去する「抗アミロイドβ抗体薬」が登場しました。この薬効をワクチンとして利用する研究が世界的に行われています。

少量の血液検査で発症リスクを知りワクチンで予防する、アルツハイマー病が消滅する日はそう遠くないのかもしれない。そんな時代が来ることを祈念してみませんか。

(亀田北病院院長)